

# 志をもって、この ふるさとに生きる



教育随想

長誉館・おかざき塾 代表

深田 正義 氏

岡崎の教育を考えます。  
 青少年期に、人は果立ちの人格を  
 整えてゆかねばなりません。自分だ  
 けの、一回限りの命がこの世に輝く  
 ように。  
 ここはどこ、今はいつ、あなたは  
 誰、という問い。見当識といえます。  
 医療で意識を確認する時の問い掛け  
 です。私たちは生涯、この答えを求  
 め続けることが、自分を見失わずに  
 生きてゆく、学びの原点です。  
 その軸を形成するのが、青少年期  
 の教育と思います。  
 その第一が、ここはどこ。  
 壮大な宇宙、悠久の時の中で、自  
 分をこの世に位置付ける根っこが、  
 ふるさと。それは岡崎。  
 岡崎とは……。  
 六十三年前、終戦。今までの軸が  
 崩れ価値観は一変。すべての日本人  
 が迷い、深く考えたのはこのとき。



作家、山岡荘八氏は、戦時、海軍  
 部報道班員としてアジア各地を転  
 戦、凄惨な戦いの中を生きて、敗戦。  
 しばらくは茫然自失の時を経て、や  
 がて絶望から立ち上がってゆきまし  
 た。「戦争と平和」を深く思い、こ  
 れから日本人が真に取り組むものは  
 「平和」と考えました。その時、選  
 んだ主題は「徳川家康」。戦国乱世  
 から世界未曾有の太平を築き上げて  
 ゆく道のりこそ、日本人が今こそ学  
 ぶテーマとして。  
 十八年、全二十六巻の大作に向か  
 って、繰り返し訪れた町が、岡崎。  
 平和を探しに尋ねてくる源流、ここ

が私たちのふるさとです。  
 愛・地球博のテーマ「持続可能な  
 社会」が人類の課題なら、岡崎はそ  
 れに取り組むにふさわしい、誇りの  
 町。ここで、第二、第三の問い、今  
 の時代と自分の志を見つけてゆく学  
 びの場を創ろうと、「長誉館・おか  
 ざき塾」を立ち上げました。  
 その合言葉は、「志をもって、こ  
 のふるさとに生きる」。  
 ふるさとの思想を整理してゆくこ  
 の活動が、これからの岡崎の教育を  
 考える一助となれば幸いです。  
 (ふかだまさよし)



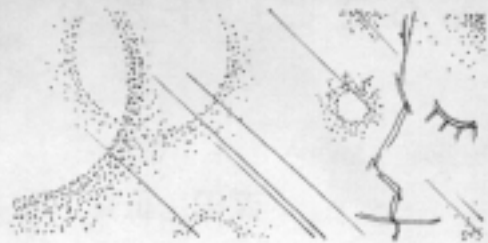
平成20年7月1日

## 7月号

発行・編集  
岡崎市教育委員会

### 今月の紙面

- 教育随想 ..... 1  
長誉館・おかざき塾 代表  
深田 正義氏
- この人に聞く ..... 2  
岡崎市美術博物館主任学芸員  
村松 和明氏
- 羅針盤 ..... 3  
家庭科指導員  
小田嘉代美
- ふれあい ..... 4  
矢作西小 松下 幸子  
知立南中 加藤 真志
- 特集 ..... 5  
地域の力を教育に生かす  
広がるスクールサポートボランティア
- お知らせ ..... 6
- フォト・ヒストリー ..... 8  
三河最初のプール (昭和11年)
- この本を ..... 9

ふるさとシリーズ  
この人に聞く

## 誇り高き文化を岡崎に

岡崎市美術館主任学芸員

村松和明氏

現在、岡崎市美術館では、「色彩の詩人—CHERRY シャガール展」が開催されている。

「シャガールは人気が高く、しばしば展覧会が開催されています。でも、シャガールの真実の姿をみることはできません。今回はロシアまで交渉に行き、国立トレチャコフ美術館所有の大壁画「ユダヤ劇場への誘い」を中心に、百六十点にも及ぶ、近年稀にみる展覧会に仕上げる事ができました。岡崎市の子供たち全員に鑑賞してほしいです。小中学生向けに、貸し切りバスを使った見学も企画しました」と、村松さんは熱意を込めて話された。

村松さんは、東京で美術を学ばれ

た後、岡崎市公募による第一号の学芸員とされた。

「美術教師を目指したこともあり、学びました。しかし、学芸員という立場で、より美術を研究し深めることによって、必ず子供たちの教育につながっていくと考えました。東京には、名画やコンサートなどの芸術を身近に触れられる場所があります。岡崎にも何か特色のある美術館がでないかと思いつき始めました。」



学芸員としての最初の仕事は、十二年前の「おかしき世界子ども美術館」の立ち上げだった。そしてその十年後、現在勤務する「岡崎市美術館」の立ち上げにも携わられた。「特色を出すといっても、容易なことではありませんでした。当初、岡崎の特色といえば徳川家康ということ、家康が生きた時代、十六世紀のパロック絵画を取り上げることになりました。しかし、パロックの名画の入手は困難で、優秀な複製品が無い美術館はかたいていばかりです。本館には、「マインドスケープ（心を語るミュージアム）」の愛称がありました。そこで、心の解放を求めた芸術運動シニョレアリズムが、その後の研究や展開に有効ではないかと提案したのです。」

平成十年、「シニョレアリズムの巨匠展」の開催を契機に、それからの十年間は、作品の収集活動やシニョレアリズムの研究に邁進された。

「十年前は、出品交渉にも苦労しました。他県美術館が借りたいような作品が岡崎には少なく、どこかの田舎の学芸員が来たのかという扱いも受けました。しかし、今では、岡崎のシニョレアリズムコレクションは、国内屈指といわれ、知られるようになりまし。地道にシニョレアリズムの展覧会を継続しながら研究論文を書き、広く情報を発信することで、美術館も私自身も少しずつ信頼を得られるようになりました。昨年の「シニョレアリズム展—謎をめぐる不思議な旅」は、美術専門誌の展覧会ランキングで全国一位になりました」と、十年間を振り返られた。村松さんは、シニョレアリズムの巨匠「ダリ」の研究者としても著名で、「NHK新日曜美術館」に出演された。また、全国の美術館や大学からの講演依頼も多い。

「また十年、これからです。子供たちが名品に触れ、知ってもらうことは次世代への財産です。子供たち、そして岡崎のため、誇りに思えるような文化を少しでも多く残していきたいという気持ちを持ち続けながら、充実した美術活動を行っていきたいです。」

その言葉には、次のプロジェクトへの強い意欲が感じられた。

氏名 村松和明 住所 岡崎市在住



## 確かな選択眼を育む

## 家庭科の授業

家庭科指導員 小田喜代美

A 小学校「生活を楽しむ小物作り」の授業。「ボタン付け」が先か、「脇の直線縫い」が先か。製作手順を教師に問われ、子供たちは頭をひねる。生活経験がないから、見通しを立てることが難しい。具体物を閉じたり、開いたりしながら、答えを一人一人が見つけ出していく。

B 中学校「衣生活を見直そう」でカラーコーディネートする授業。個性に敏感な三年生が、準備された数色の布を首に当て、友達にアドバイザーをもらいながら、いちばん似合う色を見つけ出していく。導入で、学級担任の実物大写真を使ってコーディネートし合った生徒たちは、班に分かれるや、順に鏡の前に立って、「この色は?」「こっちの方が顔が明るく見える」と意見を交わし始めた。時折、笑いがこぼれ、終始、和やか

## 無口なA男の大変身

矢作西小学校 松下 幸子

「何を考えているのだろうか。」

これがA男の第一印象だった。授業では、ただ席に座っているだけで、反応がない。A男の目線で話しかけても目を合わせず、びくりともしない。私はA男にどのように接したらよいのか、迷っていた。

そんなA男がある日、ひたすら机に向かっていた。驚いて、そっと近づいてのぞき込むと、A男は何やら描いていた。私は聞いてみた。「楽しそうな絵だね」と。「これは僕が作ったゲームなんだ」と、思わぬ答えが返ってきた。その瞬間、体に魂がやどったかのようにA男の目が輝いた。それからしばらく、絵の説明が続き、理解しないまでも「うん、うん」とうなずいてみせた。その日から私との距離がぐっと縮まった。

そしてA男は、私



の授業での質問に、人が変わったように手を挙げるようになった。

未だに、A男の言動には理解に苦しむ面があるが、そんなA男の発言には「ほっ」とする。しだいに愛くるしい表情も見せるようになり、友だちとの交流も増えてきた。

人を温かい気持ちにしてくれるA男が、今日は一体どんな姿を見せてくれるのか、すごく楽しみだ。



### 数学の楽しさが 伝わる授業を

知立市立知立南中学校

加藤 真志

「今日は地球で数学だ。もし、地球の赤道から高さ一メートルのところから、地球を一周する道路を作るとしたら、この道路の長さは、赤道一周よりどれくらい長いだろう。」

中学二年の数学、文字式の授業の

一場面。地球を舞台にした面白い、A男は驚きの表情を見せた。

外国籍の

A男は、まだ日本語が

うまく話せず、授業中も不安な表情を見ることが多い。父母の祖国ブラジルと日本との距離を感じながら、日々生活しているのだろう。

授業後に、A男が話しかけてきた。「キョウノウスウガク、タノシカッタ。スウガクハ、セカイキョウウツウダネ。」

地上一メートルで地球を一周する道路の長さとは赤道一周との差がわずか六メートル程しかないこと、一メートルという長さが、世界中の誰にとっても共通な地球を基にして決められたこと、数式は世界共通語であること、……。ブラジルと日本を結ぶ数学の話、A男は瞳を輝かせて聞いてくれた。

数学のよさや楽しさをこれだけ伝えられるかわからないが、これからはA男が楽しいと言ってくれる数学の授業を目指していきたい。



に学習は進んだ。聴く生徒や戸惑う生徒は、一人もいなかった。

両授業とも、ややもすれば、「教えることをあえて考えさせて、効率が悪いのでは」「学びの質や量は適当か」といった声などが聞かれる。

小物の製作手順を、今日の授業で見出した子供たちが、今後の家庭生活で、いつも小物を作るわけではない。物作りの手順を考えるには、「作り易さ」「丈夫さ」「速さ」などの視点があることを学び、その時々々の生活と照らし合わせ、選択し、活用していく力を備える契機になった点に意味がある。

コーディネートし合いながら、友だちの客観的な目と、自分の主観的な目で見出した「似合う色」を、生活の場に合わせて判断し、選ぶ。周囲の人の輪の中で、自分を自分らしく表現することの大切さや楽しさを、全員の生徒が、今後いつでも生かせる点に意味がある。つまり、家庭科の授業は、生活の中で生きて働いて初めて意味があると考え実践したい。

子供たちには、十人十色の家庭生活がある。それらは、時とともに変化していく。その時その時に必要な選択をしていける確かな目こそ、家庭科の授業で育みたい。



▲ 地域の子供は地域で守る「梅園見守り隊」(梅園小)

スクールサポートボランティア(SSV)は、学校と家庭、地域が一体となって幅広く学校を支援する体制作りとして始まった。

本市のSSV登録者総数は三九、一五一人(一九九九年十二月現在)を数え、平成十六年の調査以来、増加の一途をたどっている。特に、登下校安全支援にかかわる人数は三万人を越え、登下校の安全体制が地域の力によって強化されている。

学校侵入や不審者情報の増加を背景に、平成十一年から各地で地域安全パトロール隊が組織され、平成十三年からは、多くの学校で登下校安全パトロール隊が活動を開始した。「子供たちの登下校を見守りましょう。声をかけましょう」という呼びかけは、今日では、低学年児童の付き添い、地域住民とPTAによる学区安全マップ作り、北野小の「校門ガード」に代表される学校内外の監視強化などの取り組みに発展している。

このような活動を発端として、地域学習やクラブ活動の講師としての学習支援、部活動の指導、本の読み聞かせなど、学校を支援する保護者や地域住民の活動は、実情に応じて広がりをみせている。幼稚園で人形劇を披露したり、マラソン大会におけるこやおやつを用意したりするなど、アイデアと愛情にあふれた取組も多い。さらに、近年「おやじの会」が各地で作られ、学区の夜間パトロールや設備の修繕、文化展でのバンド演奏など、父親ならではの活動も盛んになってきた。

SSVの進展により、「専門的な立場から指導してもらえない」「多くの目で子供たちを見守ってもらえない」「子供たちの郷土を愛する気持ちがあった」「学校を核にして、地域住民のつながりもできた」など、様々な効果も見られる。「地域の子供は地域で育てる」という熱意と地域の教育力が感じられるSSVの今後の活動に期待したい。



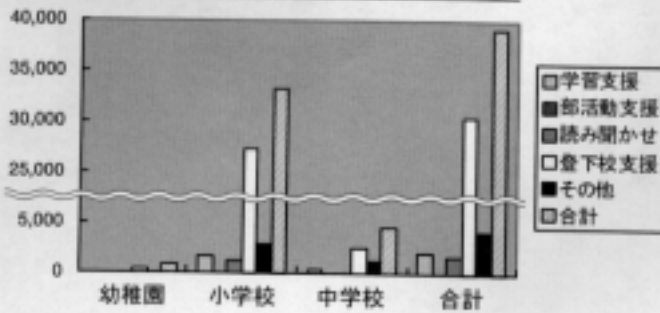
▲ 終日、正門付近で児童を見守る「校門ガード」(北野小)



▲ 冬休みの学習会に学区住民が協力する「学習支援」(城北中)

### SSV登録者数内訳

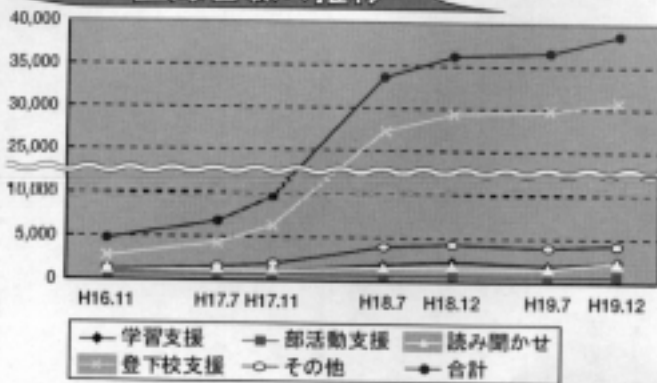
(平成19年12月)



**花のある学校**  
細川小 六年

学校のろうかのところどろに、いつでもきれいな花が生けてあります。その花を見ると、ほっとしてとてもやさしい気持ちになります。お仕事もあって忙しいお母さん方なのに、私たちのために心を込めて花を飾ってくださいることにととても感謝しています。これからもずっと続けてほしいです。

### SSV登録者数の推移



**笑顔に魅せられて**  
読み聞かせ支援の Aさん

自分が好きでやっていることが、少しでも学校の役に立っているなと思えば、もう四年間も続けています。子供たちのうれしそうなお顔やあいさつが、エネルギーになって、次もまたがんばろうという気になります。自分の子供は卒業しても、続けていきたいと思っています。



▲文化展を盛り上げる「父ちゃんバンド」(広幡幼)



▲本の読み聞かせをする「こあらグループ」(美合小)

## 広がる活動—地域の教育力が学校・園を支える—



▲校内に花を飾るフラワーボランティア「たんぽぽ」(細川小)



▲ベンチ作りに取り組む「葵ファザーズ」(葵中)

# お知らせ

## ● 教育最新情報

### ■ 心をつなぐ学校づくり

今年度、愛知県県民生活部主管の「心をつなぐ学校づくり推進事業」において、根石小学校と矢作幼稚園が事業委託を受けた。今回は、矢作幼稚園の実践計画を紹介する。

#### ◆ 人とのかわりを通して思いやりの心を育てる

岡崎市立矢作幼稚園 幼児は、幼稚園という初めての集団生活の中で、教師や友達、そして、地域の方など、様々な人とのかわりを通して、相手の気持ちを思いやる心が育つ。また、異年齢と交流することで、上の子は下の子に優しくかわり、下の子は上の子から優しさを受け、豊かな心が育つ。これらのことから、交流活動を次のよう



に、実践していく。

#### (一) 年長・年中児の異年齢交流

○年長・年中児でペアを作り幼児同士が名前を覚え、親しみを持って楽しく遊ぶ。  
年間計画を立て、ねらいを明確にして取り組み、内容の充実を図る。

・毎回の交流日を「楽しい日」と決め、幼児が期待して活動できるようにする。

・苺狩り、玉葱収穫、虫取り遠足など、ペアで手をつなぎ一緒に歩いて行く。

・一緒にゲームや食事をする。  
年少児は三学期より交流。

#### (二) 幼小交流

○年長児と矢作東小学校一年生との交流を行い、優しさを受けて楽しい体験をする。  
小学校と幼稚園の教師が、活動計画を話し合う。

・年七回、双方のねらいに沿って、お互いの学校や幼稚園で交流する

・一対一のペアを組み、招待状の交換をした後、学校探検やゲーム、遊べるおもちゃ作りなどを一緒に行う。

#### (三) 地域との交流

○老人介護施設の高齢者との触れ合いを年三回行う。

○矢作保育園年長児との交流、矢作北・矢作中の中学生と体験学習での交流、城西高校生と夏祭りでの交流を行う。

#### (四) 保護者との連携

○交流活動の内容を「楽しい日だより」として、写真入りの手紙を発信する。

・保護者同士も親しくなるように、ペア活動の様子を保護者に話して知らせる。



ペアで仲良く「触れ合い遊び」

### ● 少年自然の家だより

昨年度は、少年自然の家開所三十周年の節目を迎えることができた。今年度は、四月九日(水)の童海中一年生を皮切りに、中学校一年生の山の学習が開始された。続いて五月に入ってから、小学校の六ッ美北部小五年生が入所し、市内の全小中学校の山の学習が計画に従って行われている。

今年度から、野外指導員が、各小中学校を事前に訪問し、山の学習に関して直接教師の相談に乗り、助言、実技講習を行っている。また、利用学年の子供も実技指導を受けられるようになった。教師が野外活動の指導力を向上させ、利用当日により自信をもって取り組むことにより、子供にとっても、意義ある思い出の多い活動になるようにしたい。

また、少年自然の家では「ネイチャークラブ」を年間七回主催している。一回目は、五月十七日に実施した。年間主な活動は、炊飯活動、鮎つかみ、カヌー・水遊び、落



ち葉スキーや餅つきなど。その他の主催事業として、夏休みに「すぶらワイルドキャンプ」を一泊二日の予定で行う。また所内で見られる植物、虫や螢などの観察や木工作、星座観察なども、季節に合わせて、講師を招いて行っていく。

併せて今年度は、昨年度に引き続き展望台や遊歩道、テントサイトの整備も行っている。また、キャンプファイヤーでのファイヤー点火方法を多種類にし、火矢を利用できるようにもした。

なお、今年度から、第二東名高速道路関連の工事が始まった。工事関係の車両が増えることが予想されるので、安全には十分気をつけてほしい。

●表彰

- ◆中日音楽器個人・重奏コンテスト(東海・北陸)
  - 個人の部
    - 優秀賞 岩津中三年 片桐愛香
    - 岩津中三年 今村美紅
    - フルート
  - 優秀賞
    - 岩津中三年 犬塚亜実
    - 岩津中三年 犬塚杏奈
  - ソプラノサクソフォン
    - 優秀賞 岩津中三年 加茂水榮佳
    - 岩津中三年 吉田和加奈
  - 重奏の部
    - サクソフォン四重奏
      - 優秀賞 岩津中学校
- ◆育てプリントコミュニケーションコンクール(平成十九年度)
  - 日本教育新聞賞
    - 北野小 林 茂生
  - 優良賞
    - 緑丘小 高橋山美子
    - 生平小 平木教男
  - 佳作
    - 稲垣たかみ(生平小) 近藤康雅(広幡小)
    - 久田あい(六名小) 山口和雄(聖光小)
    - 柴田聡子(六ツ美北)
- ◆第二十四回愛知県中学生体育別業大会
  - 女子五七級級
    - 第二位 甲山中三年 稲垣妙織
- ◆第十八回愛知県小中学生団体卓球リーグ
  - 女子二部 優勝 額田中学校
- ◆FBC春花壇コンクール
  - 県知事賞 上地小学校
  - 優良賞 細川小学校

# 命輝く! たぎる情熱 光る汗

第52回岡崎市中学校総合体育大会の記録

●種目別競技

種目	性	優勝	2位	3位
陸上競技	男	竜海	六ツ美北	南
	女	竜南	矢作	竜海
バスケットボール	男	北	矢作北	竜海
	女	北	南	矢作北
バレーボール	男	矢作	東海	竜海
	女	矢作北	六ツ美	六ツ美北
ソフトテニス	男	矢作	河合	竜海
	女	甲山	南	福岡
卓球	男	矢作北	矢作	六ツ美北
	女	北	額田	美川
体操	女	東海	矢作北	竜海
	女	南	矢作北	東海
剣道	男	矢作北	北	甲山
	女	矢作北	南	矢作
ハンドボール	男	美川	葵	竜南
	女	美川	六ツ美北	竜南
軟式野球	男	六ツ美	六ツ美北	矢作
	女	矢作北	北	葵
柔道	男	矢作	矢作北	竜南
	女	矢作北	竜南	甲山
サッカー	男	甲山	福岡	竜南

●陸上競技(個人・1位のみ)

性	種目	氏名	校名	記録
男	1年100m	井上 脩 吾	矢作北	13"0
	100m	田中 威 史	竜海	11"5
	200m	森 大 輝	竜海	24"3
	400m	下 谷 哲 生	北	55"9
	800m	山本 雅 人	六ツ美北	2'08"6
	1年1500m	西山 令 葵	新4'26"1	
	2年1500m	大内 健 葵	4'28"1	
	3000m	竹内 洸 貴	矢作	9'25"2
	110mH	清水 陽 平	甲山	15"9
	400mR	藤・日・丸・森	竜海	47"0
女子	低400mR	藤・日・丸・森	六ツ美北	49"2
	走り幅跳び	野本 健太郎	六ツ美	6m09
	走り高跳び	中野 渡 陽 平	竜海	1m65
	砲丸投げ	鴨川 顕 慶	美川	9m52
	棒高跳び	榎 将 太	南	新3m70
	1年100m	杉山 美 貴	矢作北	14"1
	100m	久嶋 見乃巳	竜南	13"0
	200m	安田 涼 子	竜南	27"4
	1年800m	溝口 美 月	矢作	2'33"2
	800m	青野 智 子	竜海	2'28"3
女子	1500m	近藤 華 菜	甲山	4'56"4
	100mH	坂田 実 佳	城北	16"1
	400mR	榎・丸・財・安	竜南	52"6
	低400mR	北川・瀬・藤・船	東海	新55"3
	走り幅跳び	浅井 真 子	城北	5m19
	走り高跳び	鈴木 麻莉華	南	1m45
	砲丸投げ	太田 奈 穂	福岡	11m53

●個人戦競技(1位のみ)

種目	性	階級・部門	氏名	校名
柔道	男子	軽量級	佐々木 彰 良	竜南
		軽中量級	林 隆 政	矢作
		中量級	林 和 希	矢作
	女子	重量級	三井 大 輔	矢作
		軽量級	徳元 智 美	矢作北
		軽中量級	稲垣 妙 織	甲山
体操競技	女子	中量級	松岡 ひとみ	竜南
		個人総合	鈴木 木 里 奈	竜海
		床運動	鈴木 木 里 奈	竜海
平均台	女子	跳び箱	鈴木 木 里 奈	竜海



▲第52回岡崎市中学校総合体育大会「開会式」

## 三河最初のプール

(昭和11年)

写真提供：連尺小学校

昭和十一年、連尺小学校にプールができた。当時、プールのある小学校は名古屋市の田代小学校だけであった。そんな中で、児童の健康で逞しい体を育成するためには、どうしてもプールが必要であると学区有力者・保護者の意見がまとまった。学区の篤志家の寄付を募り、当時のお金で一五〇円をかけて造られた。

そして、その竣工式は、昭和七年ロサンゼルスオリンピックの水泳八百Mリレーで金メダルを獲得した日本大学の遊佐正憲選手らを招き、盛大に行われた。

この三河最初のプールを借りに、多くの学校が訪れ、水泳指導の基本を学んでいた。

## フォトヒストリー

岡崎の教育



## この本を

- |              |       |
|--------------|-------|
| *ルボ貧困大国アメリカ  | 堤 未果  |
| 岩波新書         | ¥700  |
| *人生読本 落語版    | 矢野 誠一 |
| 岩波新書         | ¥700  |
| *遣唐使         | 東野 治之 |
| 岩波新書         | ¥700  |
| *キレル大人はなぜ増えた | 香山 リカ |
| 朝日新書         | ¥700  |

- \*そうか、もう君はいないのか 城山 三郎  
新潮社 ¥1,200

本書は、最愛の伴侶に先立たれて後、その愛の絆を綴った遺稿である。

「妖精が落ちて来た感じ」がした偶然の出会いから、筆者の初恋が始まる。それから、波乱万丈の生活が繰り広げられる。しかし、妻はどんな時も他人を思いやるやさしい心を持ち続けた。逝った後の悲しみは、書きかけの小説の構想をも変えさせた。すべて、伴侶のお蔭という。

精一杯生きるとは、どんな生き方なのか。それを考えさせてくれる一冊である。

男川小 野々山周次郎

大相撲名古屋場所が始まる。近年、角界の国際化や行き過ぎた積古などにより、日本の伝統的な国技としての精神が失われつつある。本格的な夏を越え、万全な体調管理が勝敗の鍵といわれる名古屋場所。プロとしての誇りを持った力士たちの名勝負が観られることを期待したい。

下を向いて歩く子に「今日は元気ないぞ」と、心配して声をかける学区見守り隊の方。自らの戦争体験を熱く語り伝えてくださる地域のお年寄り。夜の街へパトロールに出かける保護者。学区と子供たちへの愛情を支えられたSSVの活動によって、子供たちも学校も元気になっていく。

シ  
オ  
ス  
ア

「あの一球が、試合の流れを変えた」そんな一球がきつとこの夏にも見られるだろう。勝利に導く「この一球」は、二年半の練習の何十万何百万球の中で培われる。夏の大会は「部活卒業式」。この卒業式は、努力で後に後にと延ばすことができる。悔いなき「卒業」を迎えてほしい。

澄み渡った空に向かって、大きな向日葵が咲いている。画家ゴッホが愛したこの花は、目標に向かって懸命に努力する子供たちのよう。見ている人の心にもエネルギーを満ちさせる。さあ、夏本番。向日葵に負けず、子供たちと明るく前向きに夏を満喫していききたいものだ。



